

栗中だより

全国学力・学習状況調査
結果分析 2024.10 発行



4月18日(木)に行われた「令和6年度全国学力・学習状況調査」の本校の結果についてお知らせいたします。調査のねらいを踏まえ、子どもたち一人ひとりが「分かる喜び」や「学ぶ楽しさ」を感じることで授業となるよう、今後も改善に努めてまいります。ご家庭でも、ご支援、ご協力をお願いいたします。

〈分析結果の表記について〉

- ・「さらに伸ばしたい部分」：本校の強みの部分をさらに伸ばすための取組
- ・「課題として取り組む部分」：本校の弱みの部分についての改善策

教科に関する結果から

『国語』について

| さらに伸ばしたい部分 | 課題として取り組む部分 |
|---|---|
| <p>○話題や他者の発言をふまえて、自分の考えを記述する問題の正答率が、県平均を上回っています。条件にしたがって自分の考えを書く力が育っています。</p> <p>→複数の条件をふまえて自分の考えを書いたり話したりする学習を、引き続き行っていきます。説得力のある根拠や、論理的な構成などを工夫し、さらに表現力を高めることを目指していきます。</p> <p>○文章の内容について、着目する事柄を決めて要約する問題の正答率が、県平均を上回っています。</p> <p>→問題文で何を問われているのか、必要な情報は何かを自分で判断して書くことができるように、日頃の学習で引き続き「要約」の学習に取り組んでいきます。</p> <p>記述式問題に強くなってきたのが栗中生の成長です!</p> | <p>△話し合いの中での発言と資料の関連について答える問題の正答率が、県平均を下回っています。</p> <p>→自分の考えを分かりやすく伝えるために、どのような資料を用いるとよいかを考えて、作文やスピーチの学習に取り組むようにしていきます。</p> <p>△文章中の図の役割について考える問題の正答率が、県平均を下回っています。文章と図を結び付けて内容を解釈する力が弱い傾向にあります。(右の問題参照)</p> <p>→説明的文章の学習で、文章に書かれている事柄と、図やグラフのつながりについて意識して読むようにしていきます。図やグラフがあることでどのような効果があるかを考えることや、図やグラフなどを用いて文章を書く表現活動を積極的に取り入れます。</p> |



解答 1、2

【課題として取り組む部分】の問題例 国語

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一口に植物といっても、世の中には多種多様なものがあります。木でも草でもよいのですが、そのなかから好きなものを片端から思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみてください。どのような言葉があがってくるでしょうか。

「楕円形の」「薄い」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「厚ぼったい」「針のような」「手のひらのような」……。それこそさまざまな形容があるでしょう(図)。

では次に、それらの言葉を2つのグループに分けるとしたら、どのように分けられるでしょうか。もちろん、言葉を2つのグループに分けるやり方はいろいろあるので、何が正解、ということはありません。自由に考えてみてください。

① 今、問題となっているのは「形」ですから、「二次元的(平面的)な形容」と、「三次元的(厚み方向の)形容に分けることはできそうです。つまり、先ほど挙げた例であれば、「楕円形の」「先のとがった」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「針のような」「手のひらのような」は平面的の形の形容で、「薄い」「平べったい」「厚ぼったい」は厚み方向の形容です。こうして見ると、平面的な形容のほうは数も多くてバラエティーに富んでいるのに対して、厚み方向の形容は、きわめて限定されている感じがします。しかも、「薄い」と「厚ぼったい」という正反対の言葉が入っているのが気になります。

しかし、考えてみると、誰も「サイコロが厚ぼったい」とは言いません。「厚ぼったい」も「薄い」も、平たい物質の形容であって、その形の本質は「平たい」ことにあるわけです。平たいもののなかには、平均的なものより厚めなもの、薄めなものがある、その程度の差が形容の差を生み出しているのでしょう。

② 「図」さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものととして適切なものを、次の1から4までの中から2つ選びなさい。

1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。

2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。

3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。

4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。



図 さまざまな形の葉

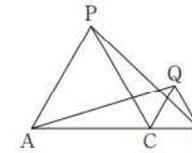
『数学』について

| さらに伸ばしたい部分 | 課題として取り組む部分 |
|--|---|
| <p>○ 2枚硬貨を投げて2枚とも裏が出る確率を求める問題の正答率は、全国、県平均を大きく上回り、8割を超えています。</p> <p>→ 基礎的な確率の求め方が定着しているため、条件が絡み合った活用問題に対しても対応できるように思考力、判断力、表現力を養う授業展開を目指していきます。</p> <p>○ 一次関数のグラフを読み取る問題では8割を超える生徒がグラフの変化するポイントやその意味を理解し、文章題における内容と照らし合わせながら解答することができています。</p> <p>→ 一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、式、表、グラフを相互に関連づける力を、引き続き継続して育成していきます。</p> | <p>△ 普段、見かけることのない問題（車型ロボットのプログラム）、情報量の多い問題に対して、適切に必要な情報だけを読み取ることに課題が見られます。</p> <p>→ 初見の問題に対応できるような生徒を目指した授業展開となるように、日頃から学習用端末を活用して多様な問題を扱う授業を行うようにしていきます。</p> <p>△ 筋道を立てて三角形の合同を証明する問題では、4人に3人（約75%）が文章表現以前に、根拠となる事柄を正しく選択することができていませんでした。（右の問題参照）</p> <p>→ 2、3年生の図形領域の授業の中心は、「証明」となります。証明の問題は、ゴールから筋道を立てて順序だてて考えなくてはならないため、普段の授業から見通しを持たせながら、根拠を正しく選択できる力を育成できるように努めます。</p>  |

【課題として取り組む部分】の問題例 数学

(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ = PB$ になると予想しました。

桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



証明

△QACと△BPCにおいて、

合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AQ = PB$

解答例

正三角形の辺はすべて等しいから、

$$AC = PC \quad \dots\dots ①$$

$$CQ = CB \quad \dots\dots ②$$

正三角形の1つの内角は 60° より、

$$\angle ACQ = 60^\circ + \angle PCQ$$

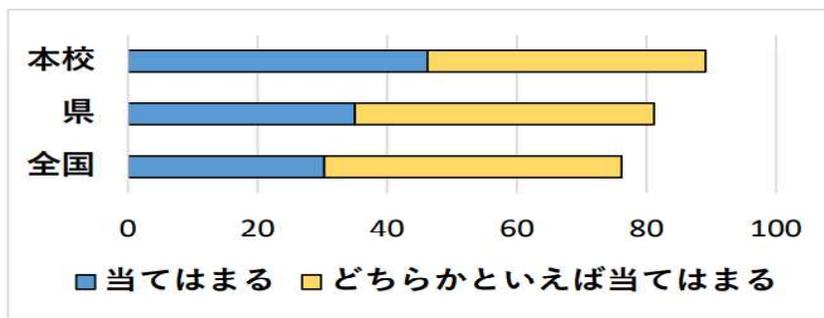
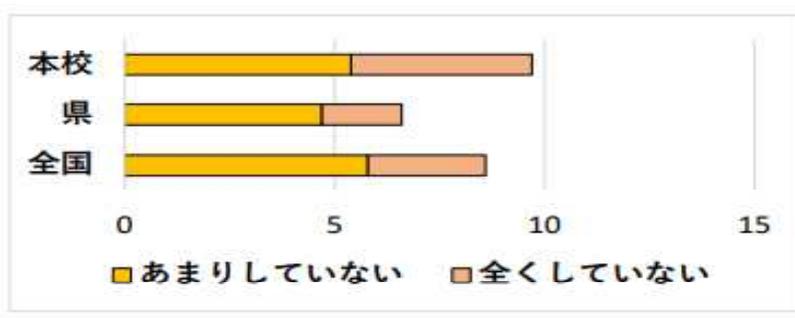
$$\angle PCB = 60^\circ + \angle PCQ$$

よって、 $\angle ACQ = \angle PCB \quad \dots\dots ③$

①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle QAC \equiv \triangle BPC$$

生徒質問紙の結果から

| さらに伸ばしたい部分 | 課題として取り組む部分 |
|--|--|
| <p>○ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか [単位%]</p>  <p>○ 自分とは異なる意見、多様な考えをまず受け止めて、そこから自分の考えをより深めていこうとする態度が身についています。</p> <p>→ 日頃の授業はもちろん、ピア・サポート活動や道徳の授業の一層の充実を図り、それぞれの考えを認め合い、誰もが意見を伝えやすいよい雰囲気づくりを大切にします。</p> | <p>○ 朝食を毎日食べていますか [単位%]</p>  <p>△ 朝食を食べない日がある生徒の割合がやや高い傾向にあります。</p> <p>→ 朝食をとることの大切さを、学級活動などを活用し、様々な場面で伝えていきます。学校栄養士と連携して、食育を進めていきます。</p>  |

地域の皆様に支えていただき、粟中生はがんばることができています。今後も学校と家庭・地域がよりよい信頼関係の中で教育活動を進められるよう、ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。